

兵庫県 の ハ ム シ (Ⅱ)*

高 橋 寿 郎

Chrysomelid-Beetles (Coleoptera) from Hyōgō-Prefecture (Ⅱ)

by Toshio Takahashi

はじめに

兵庫県産のハムシに就いての第2報を発表させて頂き度いと思う。はじめに本誌前号(V, 3/4, pp. 213~215, 1967)に大野正男氏が三濃山(赤穂郡)のハムシ類をご発表になっている。兵庫県下西南部はほとんど未調査の地であり、そういった意味から勿論貴重な報文であるが僅か1日の調査で85種の多くを記録され(内2種は種名未確定)、また、その中で筆者が従来県下産ハムシ類を調査してきたにも不拘14種の県下産新記録種が発表されていること(特に氏が、ここ数年来精力的に研究されているノミハムシ亜科のものに多い)など大変重要な報文であり、本報以後はこの大野氏の記録をもふくませて頂くこととしたい。

Subfamily Criocerinae Lacordaire

クビナガハムシ亜科

日本産本亜科は4属に分けられるが、兵庫県にはCrioceris属のみ産せず、他の3属を産する。

Genus Lema Fabricius クビボソハムシ属

日本産本属には12種1亜種が知られており、兵庫県下からは9種記録出来た。

8. *Lema adamsii* Baly キベリクビボソハムシ
C—pl.162, f.5, p.323.

本種の体色は相当変化に富み、そのことは中条博士が詳しく図説されている(新昆虫, VII, 13, pp.4~6, 1954)、生態に就いては知られていないが食草としてヤマノイモが知られている。

この亜科の幼虫はその大部分が知られていて日本産29種の内10種をもって林長閑氏は幼虫による分類を発表しておられる(新昆虫, IX, 13, pp.2~8, 1956)、また、ファーブルの昆虫記にはフランスでの観察の結果Crioceris merdigera, C. campestris, C. 12—punctataの3種の幼虫の形態、特に幼虫が糞を背にする習性、自分の食料の果実の中で生活する幼虫と寄生蠅との関係を面白く記録されている(岩波文庫, 第14分冊)。

筆者は県下から未採集で、僅かに山本、高橋両氏の記録あるのみにて珍しい種であると考えられる。

産地; 氷上郡 神楽村稲土 [1ex., VI—1952, 山本, 1958], 出石郡 出石町材木 [1ex., 31—VIII—1963, 高橋, 1963]

9. *Lema circisicola* Chūjō

アザミクビボソハムシ

C—pl.161, f.21, p.322.

本種は従来日本から*L. puncticollis* Curtisとして知られていたのであるが中条博士の研究の結果、全く異なるものとして新種として発表された。日本に広く分布している*L. concinnipennis* Balyによく似た種であるが体大きく強壯、前頭と頸の部に大きく密な点刻を有す、併し頭楯にはそのような点刻を平面に存す、しばしば中央の前に横溝を有し基部の前に広く深い横溝を有するなどの諸点にて区別される。

生態に就いては詳しくわかっていないが、高倉氏が*L. concinnipennis*として記録された生態(新昆虫, V, 4, p.40, 1952)は本種のことであると思われる。食草としては種々のアザミ類が知られている。幼虫は林氏が図説されている(1959)。

兵庫県下では個体数は少ないようである。

産地; 氷上郡 [山本, 1953], 出石郡 出石町荒木 [1ex., 27—VIII—1963, 高橋, 1963], 赤穂郡 三濃山 [2exs., 7—V—1964, 大野, 1967], 養父郡水の山 [1ex., 25—VII—1955, 1ex., 27—VII—1956]

10. *Lema concinnipennis* Baly

キバラツユクサハムシ

B—pl.18, f.363, p.62. C—pl.161, f.23, p.322.

本種の生態に就いては高倉氏の報文があり(新昆虫, IV, 13, pp.14~16, 1951)、また、幼虫については黒佐氏の記録がある(新昆虫, VIII, 9, p.43, 1955)。

食草としてはツユクサが知られている。

兵庫県下では個体数あまり多くない。

産地; Hiogo [Baly, 1873], 神戸 [和田, 1950], 氷上郡柏原 [山本, 1953, 1958], 出石郡出石暮坂 [1ex., 31—IX—1963, 高橋, 1963], 津名

*兵庫県甲虫相資料, 26.

郡岩屋 (1ex., 29—IV—1961), 養父郡氷の山
(1ex., 27—VII—1956)

11. *Lema coronata* Baly トゲアシツユクサハムシ
B—pl.21, f.442, p.69. C—pl.161, f.22, p.322.

本種の生態に就いては高倉氏の報文があり (新昆虫,
VI, 7, pp.17~19, 1953), 食草はツユクサが知られて
いる。九州, 台湾に1亜種 subsp. *formosana* Kuwa-
yamaを産する。

筆者は不幸, 県下から未採集。

産地; 宝塚 [IV—1950, 後藤, 1955], 氷上郡 [山本,
1958]

12. *Lema decempunctata* Gebler クコハムシ
A—f.3418, p.1189. B—pl.18, f.360, p.62.
C—pl.162, f.6, p.323.

図説は多くあり, 新昆虫 (II, pl.7, 1949) には卵
から成虫までの原色図が出ている。生活史, 斑紋変異に
ついては馬場博士の詳細なる研究がある (新潟高校 “自
然研究” 1, 2, 4号, 1932~1935), 通常5個の黒紋が
あるが, 無紋のものから4黒紋のものまで変化があり, こ
の斑紋の変化についてはいろいろの報告が知られている
(高倉, 新昆虫, V, 2, p.40, 1952, 橋本, 新昆虫,
V, 12, p.45, 1952, 山本, 新昆虫, VI, 6, p.48,
1953, 穂積, 新昆虫, VI, 10, p.37, 1953, 盛原, 新昆
虫, VII, 10, p.41, 1954)。

無紋型は var. *buneipennis* Kuwayama といわれ
る。食草はクコの葉。

兵庫県からは少ない。

産地; Taksago [Weise, 1889], 神戸市六甲山 (3e-
xs., 4—V—1958), 高取山 [3—V—1960,
鳥居], 氷上郡 [山本, 1958]

13. *Lema delicatula* Baly キオビツユクサハムシ
B—pl.21, f.441, p.69. C—pl.162, f.4, p.323.

本種の生態に就いては高倉氏の貴重な報文があり (新
昆虫, IV, 13, pp.14~16, 1951, VI, 7, p.18, 1953),
食草としてはツユクサが知られている。

非常に美しい種であるが個体数は少ない。

産地; Hiogo [Baly, 1874], 神戸 [和田, 1950],
Takarazuka [2ex., 22—IV—1953, Z. Nom-
ura, leg. Kimoto, 1964], 山の街 (3exs.,
30—V—1953), 氷上郡柏原 [V—1950, 山本,
1953, 1958]

14. *Lema dilecta* Baly スゲクビボソハムシ
B—pl.21, f.443, p.70. C—pl.162, f.9, p.323.

原記載 (Trans. Ent. Soc. London, p.74, 1873)
に兵庫の記録はあり, 後藤氏は宝塚より採集されてい
るが, 筆者は未採集である。

産地; Hiogo [Baly, 1873], 宝塚 [IV—1951, 後藤,

1955]

15. *Lema diversa* Baly アカツユクサハムシ
B—pl.18, f.361, p.62. C—pl.162, f.1a, b,
p.323.

本種は上翅の色彩により次のごとく区別される。

L. *diversa* (基本型), 上翅の色彩が前背板と同様赤
橙色。

var. *doii*, 各上翅に縦の太い黒藍色の条がある。

var. *doii* f. *morii*, 各上翅の前後に各1つの黒藍
色紋がある。

var. *lewisii*, 上翅端の赤橙色部を除き黒藍色。

var. *lewisii* f. *akaheri*, 上翅会合部に沿い多少と
も赤橙色部がある。

これ等の分布は湯浅博士によると *diversa* は京都以西
の本州, *lewisii* 及び *doii* は本州, 四国, 九州となっ
ているが, 安富氏によると (1950), *diversa*, *lewisii* 及
び *doii* の各型は北九州で得られるし, さらに高倉氏
による北九州地区の各型の分布状況の記述によると, や
はり3型とも産し一般に *lewisii* が多いことを記してお
られ (1954), *diversa* が京都以西の本州とは限らず九
州にも産するが少ないということと言える。

本種の生態は安富氏 (昆虫, XVIII, 6, pp.7~8, 1950),
高倉氏 (新昆虫, IV, 13, pp.14~16, 1951) に詳しく
述べられている。

越冬成虫は4月下旬から活動を開始し8月中旬まで継
続する。第1世代の幼虫は5月上旬から8月上旬まで発
生し, 第2世代の幼虫は7月上旬より9月下旬までに発
生する。第1世代の幼虫, 第2世代の成虫ともに11月上
旬から越冬に入るとのこと。

幼虫, 成虫とも食草はツユクサが知られている。

兵庫県下においてもいずれの型も産するが, やはり
lewisii が一番多く, 次いで *diversa*, *doii* の順になり,
特に *doii* 及び *morii* は少ないようである。

産地; 神戸 [1ex., 18—IX—1949, 1ex., 23—VI—
1949, 和田, 1950, 1月クロマツの樹皮下, 黒佐, 1955],
神戸市御影 [V—1949, 後藤, 1955], 六甲山 [Heinze,
1943, 1ex., 7—IX—1949, 和田, 1950], 鳥原 (1ex., 26
—VII—1938, 3exs., 4—VII—1939, 1ex., 2—V—1943,
1ex., 6—IV—1952), 山の街 (2exs., 30—V—1954),
丹生山 (4exs., 5—V—1956), 氷上郡 [山本, 1953,
1958], 飾磨郡雪彦山 (1ex., 14—VII—1957), 印南郡法
華山 (1ex., 23, V—1965), 出石郡出石町荒木 [1ex.,
28—VIII—1963, 高橋, 1963], 宍粟郡音水 (1ex., 20—
VII—1959), 養父郡氷の山 (1ex., 25—VII—1955, 1ex.,
22—VII—1957)

16. *Lema honorata* Baly

ムネアカヤマノイモハムシ

A—f.3417, p.1189. B—pl.21, f.445, p.70. C—
pl.161, f.24, p.322.

兵庫県には広く分布している。生態に就いて岩月氏の
報文がある(幼虫, I, 4/5, pp.13~17, 1952), 食
草としてはヤマノイモが知られている。

産地; 神戸市山の街 (1ex., 10—V—1959), 高砂 [桑
山, 1932], 水上郡 [山本, 1953, 1958], 飾磨郡雪彦山
(4exs., 14—VII—1957), 赤穂郡三濃山 [1ex., 7—V
—1964, 大野, 1967], 宍粟郡音水 (2exs., 20—VII—
1959), 出石郡伊東町佐々木 [1ex., 24—VIII—1963, 高橋,
1963], 養父郡氷の山 (5exs., 2—VIII—1953, 1ex., 25
—VII—1955)

Genus *Lilioceris* Reitter ユリハムシ属
Subgenus *Bradyceris* Chūjō

この亜属の日本産は1種のみで兵庫県にも産する。

17. *Lilioceris* (*Bradyceris*) *lewisii* (Jacoby)

セスジユリハムシ

B—pl.21, f.440, p.69. C—pl.161, f.20, p.322.

非常に珍しい種で県下から氷の山で記録されているの
みである。

産地; 養父郡氷の山 [1ex., 7—VIII—1937, 岩本, 1939]

Subgenus *Lilioceris* Reitter

本亜属の日本産は8種知られているが兵庫県下には4
種を産する。

18. *Lilioceris* (s. str.) *parvicollis* (Baly)

ムネボソユリハムシ

B—pl.21, f.349, p.69. C—pl.161, f.18, p.322.

近縁のものとは体赤褐色で頭部, 前背板, 小楯板が銅黒
色である点で区別出来る, 上翅は銅光沢ある黄, 赤褐
で, 後胸, 肢, 触角は黒い。

あまり多くないようである。

産地; 神戸市六甲山 (1ex., 15—VII—1956), 谷上
(1ex., 3—V—1957), 金剛童子山 (1ex., 24—VI—
1956), 水上郡 [山本, 1953, 1958]

19. *Lilioceris* (s. str.) *rugata* (Baly)

ヤマノイモアカハムシ

A—f.3421, p.1190. B—pl.18, f.364, p.62.

C—pl.161, f.19, p.322.

個体数多し。

産地; Hiogo [Baly, 1865, Lewis, 10—VI—1881],
川辺郡西谷村 [1ex., 18—IV—1960, Kimoto & Hiura,
1964], 神戸市一御影 [関, 1933], 布引 (1ex., 17—V
—1958), 鳥原 (1ex., 2—V—1943, 1ex., 2—V—
1957), 谷上 (1ex., 29—IV—1938), 丹生山 (1ex., 5
—V—1956), 高取山 [8—V—1960, 鳥居, 1961], 杣
谷 [1—XI—1959, 鳥居, 1961], 三田市 [1ex., 22—
II—1960, Kimoto & Hiura, 1964], 赤穂郡三濃山

[1ex., 7—V—1964, 大野, 1967], 水上郡柏原 (1ex.,
10—V—1953) [山本, 1953, 1958], 宍粟郡音水 (1ex.,
20—VII—1959)

20. *Lilioceris* (s. str.) *balyi* Chūjō

Lilioceris (s. str.) *balyi* Chūjō, Niponius,

I, 18, pp.1~3 (1962) (Hiogo)

本種は一度Balyにより *Crioceris subpolita* Motsch-
ulskyのVar. Bとして記録され, それ以後全く記録さ
れなかったものであるが, 中条博士は British Museum
に保存されている同じG. Lewis採集の♀標本と合せて
研究の結果, 新種として発表されたもので発表前中条博
士からの私信で, このような種が神戸地区にいるかもわ
からないから注意するようにとのご教示を受けていた
が, どうも調査不十分で未だに見つからない, G. Lewis
は兵庫で非常に多くの昆虫を採集しておられるが, その
頃の兵庫(現在の神戸市)とは相当変わってしまっている
ので本種がはたしているかどうか今後注意してみたいも
のである。ともあれ日本産として兵庫県産の面白いハムシ
が記録されていることは大変喜ばしい, ただ採集デー
ターの全くないのが残念である。

本種はL. *subpolita* (Motschulsky) よりL. *lateritia*
(Baly) にいくらか似ているが、次の点で区別出来
る, すなわち体は一層小さく, 体下薄赤色でなく滌青黒
色で胸部の側方は黒色, 中胸板は先方に拡がらず後方に
曲がっている。

産地; 兵庫 [G. Lewis, ♂♀, 中条, 1962]

21. *Lilioceris* (s. str.) *subpolita* (Motschulsky)

アカツヤユリハムシ

A—f.3420, p.1190. B—pl.18, f.365, p.62. C—
pl.161, f.13, p.322.

個体数多し。

産地; 神戸市御影 [関, 1933], 摩耶山 (1ex., 14—
VIII—1955), 二十渉 (1ex., 26—VI—1955), 山の街
(1ex., 17—V—1953, 1ex., 5—V—1955), 鈴蘭台
[21—VI—1960, 鳥居], 箕谷 (1ex., 9—V—1948),
水上郡神楽村 [山本, VIII—1951, 1953], 飾磨郡雪彦山
(2exs., 14—VII—1957), 宍粟郡音水 (7exs., 13—VII
—1958), 養父郡氷の山 (1ex., 25—VII—1955, 11exs.,
27—VII—1956) [Kimoto, 1964]

Genus *Oulema* Des Gozis ヒメクビボソハムシ属
本属の日本産は7種知られているが兵庫県には4種を
産する。

22. *Oulema* *atrosuturalis* (Pic)

ヒシバクビボソハムシ

C—pl.162, p.323, f.7.

氷の山で記録出来たが非常に珍しい種である。

産地; 養父郡氷の山 (2exs., 24—VII—1955)

23. *Oulema dilutipes* (Fairmaire)

アワクビボソハムシ

Lema dilutipes Fairmaire, Rev. d' Ent. VII, 149. (1885) (China, Peking)

本種は *O. tristis* Herbst と混同して同定されていたが、次の点で明らかに区別出来る、すなわち、前背板の全面に明瞭な点刻を有すること、特に中央1対縦にある点刻列の付近に大きき点刻を有する点。実際に標本を検していないので、どのような種か知らないが Fairmaire が支那北京から記録したものが日本にも産するとして中条・木元両博士が始め *Hapsidolema* 属として記録された (*Nipponius*, Takamatsu, I, 4, p. 3, 1960), その産地の中に山本義丸氏採集の県下柏原産の標本がふくまれている。最近大野氏は三濃山より記録されている。

産地；氷上郡柏原 [1ex., 24-VIII-1952, 1ex., 11-VII-1956, 1ex., 9-VIII-1956, 山本], 赤穂郡三濃山 [1ex., 7-V-1964, 大野, 1967]

24. *Oulema oryzae* (Kuwayama)

イネクビボソハムシ

A—f. 3419, p. 1189. B—pl. 21, f. 446, p. 70. C—pl. 162, f. 8, p. 323.

イネの害虫としてよく知られており、食草並びに天敵についても多く知られている。

産地；氷上郡黒井, 幸世 [31-VIII-1956, 山本, 1958], 養父郡氷の山 (1ex., 2-VIII-1953, 2exs., 25-VII-1955, 1ex., 27-VII-1956, 2exs., 25-VII-1959)

25. *Oulema tristis* (Herbst)

キアシクビボソハムシ

B—pl. 21, f. 444, p. 70.

県下で筆者未採集、個体数は少ないと考える。

産地；宝塚 [IV-1951, 後藤, 1955], 氷上郡遠阪村 [VIII-1952, 山本, 1953, 1958]

Subfamily Clytrinae Blanchard

ナガツツハムシ亜科

日本産亜科は3属に分けられ兵庫県にも3属を産する。この亜科の日本産の生態はほとんどわかっていないが、欧州産ではファーブルが6種の生態について記述している(岩波文庫, 第14分冊)。

Genus *Clytra* Laicharting

オオナガツツハムシ属

日本産本属は1種のみが知られている。

26. *Clytra laeviuscula* Ratzeburg

ヨツボシナガツツハムシ

A—f. 3423, p. 1191. B—pl. 18, f. 366, p. 63.

C—pl. 162, f. 11, p. 323.

本種は個体数の少ない種類である。日本からの最初の記録は G. Lewis の採集した兵庫県産標本により Baly が

した(1873)。ヨーロッパに産するものには上翅上の斑紋の変化によって var. *bünterupta* Reitter, var. *antistita* Weise, var. *connexa* Fricken の変種が知られているが、日本産にはかかる斑紋の変化が知られていない。

本種の食草はヨーロッパからシダレヤナギ, ハコヤナギ, カシワの類, ハンノキ, ハシバミ, シラカバ類, リンボク等が知られ、日本でもカンバの類, ブナの類, ヤナギの類が食草として知られている。

産地；Hiogo [Baly, 1873], 神戸市御影 [関, 1933], 六甲山 (1ex., 3-VII-1950, 2exs., 15-VII-1956, 大倉, 石田), 氷上郡粟鹿峯 [山本, 1953, 1958]

Genus *Coptocephala* Lacordaire

ヒロズナガツツハムシ属

日本産本属は1種のみ知られている。

29. *Coptocephala orientalis* Baly

ヨモギナガツツハムシ

B—pl. 18, f. 368, p. 63. C—pl. 162, f. 12, p. 323.

本種も Hiogo 産で記載されたものであるが極めて珍しい種である。食草としてカワラヨモギが知られている。

産地；Hiogo [Baly, 1873], 神戸市鳥原 (1ex., 1-IX-1942)

Genus *Smaragdina* Chevrolat ナガツツハムシ属

本属の日本産は8種が知られているが兵庫県には3種産する。

30. *Smaragdina aurita* (Linné)

キボツナガツツハムシ

A—p. 1191, f. 3425. B—pl. 18, f. 369, p. 63.

C—pl. 162, f. 15, p. 324.

食草としてカンバの類, イタドリ, ハコヤナギの類, ヤナギの類, エゴノキ, ハギの1種等が知られている。割合多く産する。

産地；神戸市二十渉 (1ex., 26-VI-1955), 鳥原 (1ex., 18-VI-1939), 山の街 (1ex., 26-VI-1941, 1ex., 7-VI-1959), 氷上郡柏原 [山本, 1953, 1958], 養父郡氷の山 (7exs., 27-VII-1956, 1ex., 21-VII-1958, 4exs., 24-VII-1959)

31. *Smaragdina garretai* (Achard)

キムネナガツツハムシ

A—p. 1192, f. 3426. C—pl. 162, f. 16, p. 324.

食草としてカンバの類, ヤナギの類, スイバ等が知られている。

産地；Harima [Fleischer, 1916], 神戸市道場 (8exs., 5-V-1958), 氷上郡神楽村 [VIII-1951, 山本, 1953, 1958], 養父郡氷の山 (1ex., 5-V-1958)

32. *Smaragdina nipponensis* (Chūjō)

ヤナギナガツツハムシ

B—pl.18, f.367, p.63. C—pl.162, f.19, p.324.

本種は中条博士が命名された種で、ビルマ産の *S. fuscitarsis* Jacoby に似る。従来ウリハムシと混同して採集しており、筆者の採集例でも1939年頃から種名決定し兼ねていたものである。また Baly によっても Kawachi 産として1873年の記録がある。

個体数はそれ程多くないが稀な種ではない。食草としてカワラヤナギが知られている。

産地；神戸市六甲山 (1ex., 5—VI—1943), 摩耶山 [1♂, 19—V—1949, Chūjō, 1951,], 布引 (1ex., 17—V—1959), 二十渉 (1ex., 26—VI—1955), 烏原 (2exs., 4—VI—1939, 1ex., 5—V—1943, 2exs., 24—V—1953), 山の街 (2exs., 19—V—1959, 1ex., 7—VI—1959), 丹生山 (3exs., 5—V—1956)

Subfamily Cryptocephalinae Chapuis

ツツハムシ亜科

ツツハムシ亜科に属するものは全世界から50属、約2,500種も知られており、その中の1属 *Cryptocephalus* だけに1,500種が知られている。したがって、この1属がこの亜科の内半分以上を示めていることになる。

日本産としては4属、37種、1亜種が知られており、兵庫県にはその内4属、15種を産する。

Tribe Manachini

Genus *Adiscus* Gistel タマツツハムシ属

33. *Adiscus lewisii* (Baly) タマツツハムシ
A—f.3424, p.1192. C—pl.162, f.20, p.324.

小形種、個体数比較的多し。

産地；Kobe [Roubal, 1929], 神戸市烏原 (4♂♂, 4♀♀, 6—VII—1941), 金剛童子山 (1♂, 2♀♀, 24—VI—1956), 五社 (1♂, 28—VI—1959), 宍粟郡音水 (1♂, 20—VII—1959), 養父郡氷の山 (2♂♂, 3♀♀, 27—VII—1957)

Genus *Coenobius* Suffrian ヒメツツハムシ属

34. *Coenobius piceus* Baly クロヒメツツハムシ
C—pl.162, f.21, p.324.

柏原で採集された記録があるのみ。

産地；氷上郡柏原 [VII—1951, 山本, 1953, 1958]

Tribe Cryptocephalini

Genus *Cryptocephalus* Geoffroy ツツハムシ属

本属の日本産は32種知られているが兵庫県からは12種記録出来た。

35. *Cryptocephalus approximatus* Baly

パラツツハムシ

A—p.1193, f.3430. B—pl.18, f.373, p.63.

C—pl.163, f.3, p.325.

普通種である。

生態については湯浅啓温氏 (植物及び動物, II, 9,

pp.111~112, 1934). 永富昭氏 (昆虫, XX, 182, pp. 6~10, 1953) の報文があり、食草も多く知られている。

産地；神戸市御影 [関, 1933], 烏原, 小部, 山の街, 箕谷, 丹生山, 谷上, 五社, 津名郡開鏡, 赤穂郡三濃山 [大野, 1967], 氷上郡 [山本, 1953, 1958], 同郡柏原, 出石郡出石町寺坂 [高橋, 1963], 宍粟郡音水 [Kimoto & Hiura, 1964], 養父郡氷の山。

36. *Cryptocephalus discretus* Brly

チビルリツツハムシ

B—pl.18, f.380, p.64. C—pl.163, f.6, p.325.
割合いるようである。

産地；神戸市六甲山 (1ex., 5—VII—1956), Mt. Maya [Kimoto, 1964], 二十渉 (1ex., 26—VI—1955), 山の街 (1ex., 30—V—1954, 2exs., 7—VI—1959), 金剛童子山 (2exs., 24—V—1956), 丹生山 (1ex., 5—V—1956), 朝来郡生野 (5exs., 8—VII—1956), 養父郡氷の山 (4exs., 27—VII—1956, 1ex., 27—VII—1957)

37. *Cryptocephalus fortunatus* Baly

キベリアオツツハムシ

B—pl.18, f.371, p.63. C—pl.163, f.4, p.325.

非常に美しい緑藍色種で割合多くいる。原記載に使用されたのは兵庫産のものである。

産地；Hiogo [Baly, 1873], 神戸市六甲山 (1ex., 15—VII—1956), 烏原 (3exs., 2—VI—1957), 山の街 (1ex., 13—VI—1954, 2exs., 1—VI—1958, 1ex., 7—VI—1959), 丹生山 (1ex., 18—V—1958), 箕谷 (2exs., 23—V—1938, 1ex., 6—VI—1948), 氷上郡青垣町稲土 [11—V—1958, 高橋, 1960], 宍粟郡音水 (1ex., 20—VII—1959), 養父郡氷の山 (1ex., 21—VII—1958)

38. *Cryptocephalus fulvus* Goeze

Cryptocephalus fulvus Goeze, Ent. Beytr. 1 : 321 (1777) (Europe)

筆者未採集。

産地；武庫川 [7exs., 7—VIII—1951, Y. Wada leg. Kimoto, 1964]

39. *Cryptocephalus japanus* Baly

ヨツボンツツハムシ

A—p.1193, f.3429. C—pl.163, f.10, p.325.

個体数はそう多くない。クヌギ, カシワ, ミズナラ, コナラが食草として知られている。

産地；神戸市御影 [関, 1933], 六甲山 (1ex., 10—VII—1938), 氷上郡柏原, 神楽村 [山本, 1953, 1958], 養父郡氷の山 (1ex., 24—VII—1955)

40. *Cryptocephalus limbatiennis* Jacoby

キベリクロツツハムシ

C—pl.163, f.20, p.326.

大変珍しい種と思うが山本氏によると柏原地区では割合いるとのことである。

産地；氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958, 3exs., 27—Ⅶ—1950, Yamamoto leg. Kimoto, 1964〕, 養父郡氷の山 (1ex., 25—Ⅶ—1950)

41. *Cryptocephalus nigrofaciatus* Jacoby

クロスジツツハムシ

B—pl.18, f.379, p.64. C—pl.163, f.15, p.326.

割合いる。食草にハシバミ, ヤマハギ, ヤナギの類が知られている。

産地；神戸市六甲山 (4exs., 10—Ⅶ—1955), 氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕, 養父郡氷の山 (1ex., 2—Ⅶ—1955, 1ex., 27—Ⅶ—1957, 1ex., 25—Ⅶ—1959)

42. *Cryptocephalus nobilis* Kraatz

ヨツモンツツハムシ

A—p.1194, f.3433. B—pl.16, f.375, p.63.

C—pl.163, f.9, p.325.

兵庫県下では少い種である。

産地；神戸市谷上 (1ex., 3—Ⅴ—1957), 太山寺 (1ex., 6—Ⅴ—1957)

43. *Cryptocephalus perelegans* Baly

キボシツツハムシ

B—pl.18, f.370, p.63. C—pl.163, f.21a, p.326.

兵庫県下では極めて珍しいようで、戦前一度鳥原で採集出来たが(標本紛失), 戦後再び鳥原で採集出来た。それ以外では残念ながら全く知られていない。

産地；神戸市鳥原 (1ex., 3—Ⅶ—1966)

44. *Cryptocephalus scitulus* Baly

カシワツツハムシ

B—pl.18, f.372, p.63. C—pl.163, f.16, p.326.

産地；Hiogo〔Baly, 1873〕, 神戸市六甲山 (1ex., 10—Ⅶ—1955), 布引 (1ex., 17—Ⅴ—1959), 氷上郡柏原, 神楽村〔山本, 1953, 1958〕, 養父郡氷の山 (1ex., 24—Ⅶ—1956)

45. *Cryptocephalus signaticeps* Baly

クロボシツツハムシ

A—p.1193, f.3431. B—pl.18, f.372, p.63.

C—pl.163, f.12, p.325.

普通種。

産地；西宮市香榎園, 神戸市鳥原, 山の街, 箕谷, 丹生山, 谷上, 小部, 摩耶山, 広野, 津名郡開鏡, 赤穂郡三濃山〔大野, 1967〕, 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕, 宍粟郡音水, 養父郡氷の山〔高橋, 1959〕

46. *Cryptocephalus tetradecaspilotus* Baly

ジュウシホシツツハムシ

B—pl.18, f.376, p.63. C—pl.163, f.22, p.326.

個体数は少ないようであるが広く分布している。

産地；神戸市鳥原 (1ex., 25—Ⅶ—1958), 大池 (1ex., 3—Ⅶ—1940), 氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕, 出石郡床尾山〔1ex., 26—Ⅶ—1963, 高橋, 1963〕, 朝来郡段ヶ峯〔1ex., 5—Ⅶ—1963, Kimoto & Hiura, 1964〕, 養父郡氷の山 (2exs., 25—Ⅶ—1955, 1ex., 27—Ⅶ—1956)

Genus *Pachybrachus* Redtenbacher

ホソツツハムシ属

47. *Pachybrachys eruditus* Baly

ホソツツハムシ

C—pl.162, f.22, p.324, pl.163, f.1, p.325.

県下では個体数は少ない。

産地；神戸市六甲山 (1ex., 10—Ⅶ—1955), 氷上郡神楽村〔山本, 1953, 1958〕, 朝来郡段ヶ峯〔1ex., 5—Ⅶ—1963, Kimoto & Hiura, 1964〕

Subfamily Lamprosominae Lacordaire

ツヤハムシ亜科

本亜科は全世界に2族, 11属, 約180種を産する。日本産は従来1属のみ知られていたが, 中条博士は最近(1958)2属にわけられ, その後, 大野氏はこの亜科の日本産を研究しておられる(1961)。

現在の日本には5種, 2亜種が知られている, その内2種, 2亜種は屋久島, 奄美大島, 沖縄に分布している。兵庫県には3種産する。

Genus *Oomorplus* Curtis

本属はさらに2亜属に分けられ, 日本産1種はSubgenus *Oomorplus* Curtisにふくまれ, この亜属には世界で他に3種知られているのみである。

48. *Oomorplus* (s. str.) *japanus* Jacoby

ツワブキヒメツヤハムシ

C—pl.164, f.8, p.327.

兵庫県下での個体数はそう多くない。食草としてツワブキ, アザミ類, ヤマヨモギ, キクの1種が知られている。

産地；神戸市布引 (2exs., 17—Ⅴ—1956), 赤穂郡三濃山〔1ex., 7—Ⅴ—1964, 大野, 1967〕, 氷上郡粟鹿峰〔31—Ⅴ—1959, 高橋, 1960〕, 養父郡氷の山 (1ex., 27—Ⅶ—1956)

Genus *Oomorhoides* Monros

従来 *Lamprosoma* 属として取扱っていたもの, 現在日本産は4種, 2亜種を産するが, 兵庫県下には2種を産する。

49. *Oomorhoides cupreatus* (Baly)

タラノキツヤハムシ

A—f.3435, p.1195. C—pl.164, f.6, p.327.

普通に産する。大野氏は青色がかつたものを *f. yua-sai* として区別されているが, 両者とも県下では混棲しており, 屋久島産のものは別亜種とされている。食草は

タラノキ、ハリギリが知られている。

産地；宝塚市武田尾 (4exs., 25—VII—1954), 神戸市布引 (1ex., 17—V—1959), 鳥原 (2exs., 28—V—1943), 山の街 (1ex., 16—V—1954, 5exs., 29—IV—1957, 1ex., 1—VI—1958), 箕谷 (7exs., 30—V—1943), 丹生山 (1ex., 15—V—1955), 赤穂郡三濃山 [大野, 1967, 18exs., 7—V—1964], 氷上郡柏原 (1ex., 10—V—1953) [山本, 1953, 1958], 出石郡出石町 [高橋, 1963], 飾磨郡雪彦山 (1ex., 14—VII—1957), 養父郡氷の山 (1ex., 24—VI—1955, 1ex., 27—VII—1956)

50. *Oomorphoides nigroceruleus* (Baly)

ハリギリツヤハムシ

B—pl.19, f.402, p.66. C—pl.164, f.7, p.327.
普通にいる。食草はコシアブラ, タカノツメ, ヤマウコギ, タラノキ, キズタが知られている。

産地；神戸市六甲山 (1ex., 8—V—1955), 鳥原 (2exs., 2—VI—1957), 山の街 (1ex., 11—IV—1954, 1ex., 5—V—1955, 5exs., 29—IV—1957), 箕谷 (1ex., 30—V—1943, 4exs., 23—V—1948), 丹生山 (1ex., 15—V—1955), 氷上郡柏原 (1ex., 10—V—1953) [山本, 1953, 1958], 出石郡出石町 [高橋, 1963], 赤穂郡三濃山 [1ex., 7—V—1964, 大野, 1967], 養父郡氷の山 [高橋, 1959]

Subfamily Chlamisinae Gressitt

コブハムシ亜科

コブハムシ亜科は8属に分けられ約480種が知られているが, 新大陸 (殊に熱帯アメリカ) に最も分布繁栄し, 旧大陸ではアフリカ, マダガスカル, インド, インドシナ, マレー諸島, 中国, 日本などから3属, 100種足らずのものが記録されている。

Genus *Chlamisus* Rafinesque

コブハムシ属

日本にはこの亜科のものは本属9種が知られているのみであるが非常によく似た種が多く同定も困難である。一般にムシクソハムシと言われている種であり, 県下からは僅か2種しか記録出来ていない。

51. *Chlamisus laticollis* (Chūjō)

ツツジコブハムシ

Exema laticollis Chūjō, Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, X X XII, 221, p.82, 1942.

いわゆるツツジを害するムシクソハムシとして従来 *C. spilotus* が考えられていたが, 最近大野氏の研究 (ニューエントモロジスト, X, 3/4, pp. 22~27, 1962) によりこの種がツツジの害虫であり, *C. spilotus* はツツジを食さぬことがわかった。両者はよく似ているので区別は困難である。

調査不充分であるが県下には広くいるのではないだろうか?

産地；神戸市太山寺 (1ex., 6—V—1959)

52. *Chlamisus spilotus* (Baly)

クヌギコブハムシ

A—f.3434, p.194. B—pl.19, f.409, p.66.

C—pl.164, f.1, p.327.

5~6月頃普通に得られる。食草はクリ, ハシバミ, サクラの類, コナラ属の類, ヤナギの類。

産地；神戸市六甲山, 鳥原, 山の街, 箕谷, 丹生山, 太山寺, 広野, 氷上郡 [山本, 1953, 1958], 朝来郡生野。

Subfamily Eumolpinae Chapuis

サルハムシ亜科

日本産亜科のものは20属, 45種が知られている, 兵庫県には13属, 19種を産する。

Tribe Nodinini

Genus *Cleoporus* Lefèvre サクラサルハムシ属

日本産本属は1種のみである。

53. *Cleoporus variabilis* (Baly)

サクラサルハムシ

C—pl.164, f.9, p.327.

県下では中央部から北に多くいるようである。食草としてオランダイチゴ, カイドウ, マカイドウ, セイヨウリンゴ, サクラの類ナシ, ワレモコウ等が知られている。

産地；氷上郡柏原 [山本, 1953, 1953], 朝来郡生野 (4exs., 8—VII—1956), 養父郡氷の山 (4exs., 27—VII—1956, 4exs., 21—VII—1958, 5exs., 25—VII—1959)

Genus *Nodina* Motschulsky チビサルハムシ属

日本産本属は2種で, 1種は沖縄産である。

54. *Nodina chalcosoma* Baly

ノボタンチビサルハムシ

C—pl.164, f.10a, b, p.327.

普通種。

産地；神戸市六甲山 (1ex., 10—VII—1955), 山の街 (1ex., 17—V—1953, 1ex., 26—VI—1955, 1ex., 3—VII—1955, 10exs., 4—VII—1954), 氷上郡柏原 [山本, 1953, 1958], 飾磨郡雪彦山 (4exs., 14—VII—1957), 朝来郡生野 (1ex., 8—VII—1956), 養父郡氷の山 (4exs., 2—VIII—1953, 1ex., 25—VII—1955, 6exs., 27—VII—1957)

Genus *Basilepta* Baly

サルハムシ属

日本から本属のものは10種知られているが県下産は5種である。

55. *Basilepta balyi* (Harold)

ハンノキサルハムシ

A—p.1196, f.3438. C—pl.164, f.14a, b, p.328.

県下では氷の山以外では未採集である。

産地；養父郡氷の山 (1ex., 25-VII-1955, 14exs., 24-VII-1955, 1ex., 27-VII-1957)

56. *Basilepta fulvipes* (Motschulsky)

ヨモギサルハムシ

A—p.1196, f.3439. B—pl.19, f.387, p.64.

C—pl.164, f.11a,b, p.327.

普通に産する。食草も多く知られている。

体色は甚だ変化に富み、その色彩によって6型に区別されている。もっともこの区別は必ずしも当を得ておらずお互の間に変化の中間型があり、はっきり区別することは困難である。

産地；f. *typica*, 神戸市金剛童子山, 淡路〔堀田, 1959〕, 岩屋, 朝来郡生野, 赤穂郡三濃山〔大野, 1967〕, 氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕, 青垣町惣持〔高橋, 1960〕, 養父郡氷の山。

f. *aeneipennis*, 神戸市鳥原, 津名郡岩屋。

f. *atripes*, 朝来郡生野, 赤穂郡三濃山〔大野, 1967〕

f. *rufotestaceum*, 神戸市摩耶山, 布引, 宍粟郡音水, 養父郡氷の山。

f. *coerulescens*, 神戸市金剛童子山, 氷上郡黒井〔山本, 1953〕

f. *picicolle*, 神戸市摩耶山, 鳥原。

57. *Basilepta hirticolle* (Baly)

ムナグロサルハムシ

C—pl.164, f.17, p.328.

筆者未採集であるが、大野氏は三濃山より記録されている。

産地；赤穂郡三濃山〔18exs., 7-V-1964, 大野, 1967〕

58. *Basilepta pallidulum* (Baly) スギサルハムシ

C—pl.164, f.13, p.328.

スギの害虫として著名で個体数はやや多い。

産地；神戸市六甲山 (1ex. 10-VII-1955), 布引 (2exs., 20-VII-1952), 二十歩 (1ex., 26-VI-1955), 鳥原 (3exs., 11-VII-1958, 3exs., 26-VII-1953), 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕, 養父郡氷の山 (1ex., 24-VII-1955)

59. *Basilepta ruficolle* (Jacoby) クリサルハムシ

A—p.1195, f.3437. B—pl.19, f.369, p.64.

C—pl.164, f.16, p.328.

山地性の種である。

産地；氷上郡神楽村〔30-VI-1957, 山本, 1958〕, 宍粟郡音水 (1ex., 13-VII-1958), 養父郡氷の山 (VII-1943, 後藤, 1955, 1ex., 27-VII-1956, 1ex., 27-VII-1957, 1ex., 21-VII-1958, 1ex., 25-VII-1959)

Genus *Colposcelis* Dejean ヒメサルハムシ属

日本産は1属, 1種のみである。

60. *Colposcelis signata* (Motschulsky)

ダイズヒメサルハムシ

A—p.1195, f.3436. C—pl.164, f.19, p.328.

普通種である。

産地；神戸市山の街 (1ex., 30-V-1954, 1ex., 4-VII-1954), 丹生山 (1ex., 15-V-1955, 1ex., 18-V-1958), 氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕, 出石郡出石町〔1ex., 22-VII-1963, 高橋, 1963〕, 飾磨郡雪彦山 (1ex., 14-VII-1957), 赤穂郡三濃山〔2exs., 7-V-1964, 大野, 1967〕, 宍粟郡船越山〔1ex., 20-VIII-1954, Kimoto et Hiura, 1964〕, 養父郡氷の山 (2exs., 24-VII-1955)

Tribe Eumolpini

Genus *Colasposoma* Laporte イモサルハムシ属

日本産は2種であるが、1種は奄美大島以南に産する。

61. *Colasposoma dauricum* Mannerheim

イモサルハムシ

A—p.1197, f.3442. C—pl.164, f.20, p.328.

個体数はそう多くないようである。

産地；西宮市香櫨園 (3exs., 30-V-1941), 神戸市多井畑 (1ex., 2-VIII-1941), 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕, 赤穂郡三濃山〔4exs., 7-V-1964, 大野, 1967〕, 養父郡氷の山 (3exs., 24-VII-1956)

Tribe Adoxini

Genus *Acrothinium* Marshall

ルリサルハムシ属

本属には日本から1種, 3亜種が知られているが3亜種ともに琉球諸島(沖永良部, 奄美大島, トカラ)に分布するものである。

62. *Acrothinium gaschkevitchii* (Motschulsky)

アカスジルリサルハムシ

A—p.1197, f.3443. B—pl.19, f.390, p.65.

C—pl.165, f.1a, p.329.

美しい種で普通に産する。ブドウの害虫としても知られている。

産地；神戸市御影〔関, 1933〕, 鳥原, 山の街, 箕谷, 五社, 谷上, 丹生山, 太山寺, 氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕, 出石郡伊東町〔高橋, 1963〕, 朝来郡雪彦山, 赤穂郡三濃山〔大野, 1967〕, 宍粟郡音水, 養父郡氷の山。

Genus *Scelodonta* Westwood

セスジサルハムシ属

日本産は1種のみ。

63. *Scelodonta lewisii* Baly クサギサルハムシ

B—pl.19, f.388, p.64. C—pl.165, f.2, p.329.

個体数少なし。

産地；氷上郡柏原〔VI—1951, 山本, 1953, 1958〕, 赤穂郡三濃山〔1ex., 7—V—1964, 大野, 1967〕, 養父郡氷の山 (2exs., 24—VII—1955)

Genus *Trichochrysea* Baly

ムクゲサルハムシ属

本属の日本産は1種, 1亜種のみで亜種の方は奄美大島, 沖縄に分布する。

64. *Trichochrysea japana* (Motschulsky)

シロオビムクゲサルハムシ

A—p.1197, f.3441. C—pl.165, f.4a, p.329.

個体数は多くない。

産地；神戸市御影〔関, 1933〕, 丹生山 (1ex., 5—V—1956), 太山寺 (1ex., 26—V—1957), 氷上郡妙高山, 多紀郡小金岳〔山本, 1953, 1958〕, 出石郡出石町〔1ex., 29—VI—1961, 高橋, 1963〕, 飾磨郡雪彦山 (2exs., 14—VII—1957), 赤穂郡三濃山〔1ex., 7—V—1964, 大野, 1967〕, 養父郡氷の山〔高橋, 1959〕

Genus *Demotina* Baly アラゲサルハムシ属

日本産本属には7種知られているが, 兵庫県下には4種を産する。

65. *Demotina bipunctata* Jacoby

ホンチビアラゲサルハムシ

Demotina bipunctata Jacoby, Zool. Soc.

London, Proc. 204 (1885) (Kobe)

背面の毛は細く, 上翅中央両側に白色小毛斑がある。体色は淡褐色, 上翅の点刻は明らかに縦の列状をなしており, 表面の鱗状毛は短かく細い, 腿節下面の小歯は微少。

本種はLewisの第1回の日本採集旅行 (1864~1872) 及び第2回の旅行 (1880~1881) のとき, 神戸で採集された標本に基づきJacobyが新種として発表したもので, その後全く記録がなかった。D. *modesta* に似るが小さく頑丈であり, 上翅上に白点および短軟毛条を有することで区別されるとされているが, はたして別種であるかどうか? 木元新作博士は疑問点はあるが一応同一種として処現されておられる (1964)。

記載のみからすれば本種と考えた方がよいと思うが, 独立種として考えるかどうかは材料不足で検討出来ない。

産地；神戸市山の街 (1ex., 1—VI—1958)

66. *Demotina decorata* Baly

チビアラゲサルハムシ

C—pl.165, f.9, p.329.

少ない種である。

産地；神戸市摩耶山 (1ex., 14—VIII—1955), 氷上郡生郷村〔23—VIII—1952, 山本, 1953, 1958〕, 養父郡氷の山 (2exs., 27—VI—1956)

67. *Demotina fasciculata* Baly

シロオビアラゲサルハムシ

C—pl.165, f.6, p.329.

普通に産する。

産地；神戸市六甲山 (6exs., 8—V—1955, 1ex., 21—VIII—1958), 山の街 (1ex., 23—V—1963), 谷上 (2exs., 29—IV—1959), 氷上郡柏原 (1ex., 10—V—1953), 香良〔27—VIII—1958, 高橋, 1960〕, 飾磨郡雪彦山 (1ex., 14—VII—1957), 赤穂郡三濃山〔4exs., 7—V—1964, 大野, 1967〕, 宍粟郡音水 (2exs., 20—VII—1959)

68. *Demotina modesta* Baly

ヒメアラゲサルハムシ

C—pl.165, f.7, p.329.

兵庫県下では少ない種のように思う。

産地；神戸市谷上 (1ex., 29—IV—1958), 氷上郡〔28—VIII—1958, 高橋, 1960〕

Genus *Hyperaxis* Gemninger et Harold

ムナビロサルハムシ属

日本産本属は1種のみである。

69. *Hyperaxis fasciata* (Baly) ナラサルハムシ

B—pl.19, f.363, p.65. C—pl.165, f.10, p.329.

普通に産する。

産地；神戸市布引 (1ex., 17—V—1959), 鳥原 (1ex., 20—IV—1955, 1ex., 10—VI—1956, 1ex., 2—V—1957, 1ex., 5—V—1958), 山の街 (1ex., 11—IV—1954, 1ex., 15—V—1954, 1ex., 3—V—1959, 1ex., 10—V—1959), 谷上 (2exs., 5—V—1956, 1ex., 3—V—1957, 2exs., 25—V—1958), 丹生山 (1ex., 15—V—1955, 1ex., 5—V—1956), 出石郡出石町〔1ex., 29—VIII—1963, 高橋, 1963〕, 赤穂郡三濃山〔1ex., 7—V—1964, 大野, 1967〕

Genus *Xanthonia* Baly

ヒメケブカサルハムシ属

本属日本産は1種のみである。

70. *Xanthonia placida* Baly ヒメケブカサルハムシ

C—pl.165, f.12, p.330.

氷上郡には可成りいるといわれているが一般には少ない種であると思われる。

産地；氷上郡〔山本, 1963, 1958〕, 宍粟郡音水 (1ex., 20—VII—1959)

Genus *Lypesthes* Baly ケブカサルハムシ属

日本には7種が知られているが, 県下産は1種のみである。

71. *Lypesthes ater* (Motschulsky)

コフキサルハムシ

B—pl.19, f.392, p.65. C—pl.165, f.14, p.330.

個体数はそう多くない。

脚の色彩によって亜種、型が分けられているが、ともに県下には産する。

食草も多く知られている。

1. 脚黒色……………*L. ater ater* (Mots.)

— 脚は僅かに黄色味を帯びた褐色、基節は黒色… 2

2. 跗節と腿節の先端は僅かに黒点あり……………

…………… subsp. *testaceipes* Pic

— 脚は僅かに黄味を帯びた褐色、転節、基節と腿節は黒色…………… f. *tibialis* Ohno

産地；神戸市烏原 (1ex., 17—V—1937)、丹生山 (1ex., 15—V—1955, 1ex., 19—V—1958)、谷上 (1ex., 7—V—1961)、氷上郡神楽村 [山本, 1958]、

出石郡出石町 [1ex., 19—V—1963, 高橋, 1963]、赤穂郡三濃山 [1ex., 7—V—1964, 大野, 1967]、養父郡氷の山 (1ex., 25—VII—1959)

Tribe Colaspoideini

Genus *Chrysochus* Chevrolat

オオルリサルハムシ属

日本産は1種のみ。

72. *Chrysochus chinensis* Baly

オオルリサルハムシ

C—pl.165, f.22, p.330.

氷上郡で記録されているが筆者未採集。

産地；氷上郡黒井町 [VII—1950, 山本, 1953, 1958]

(11—V—1967)

兵庫県のコガネムシ・訂正並びに追加*

高 橋 寿 郎

本誌前号 (V, 3/4, 1967) に発表させて頂いた“兵庫県のコガネムシ”中p.255, 42, *Aphodius* (*Aphodiellus*) *impunctatus* Waterhouse ツヤムネマグソコガネの産地に兵庫 [Waterhouse, 1875] と発表した。これによると原産地は兵庫となるが、これは筆者の不注意によるもので、原産地は九州島原である、それ故訂正させて頂く。本種が兵庫県下に産するか否かは筆者全く未採集なのでわからない。兵庫の記録は野村氏 (1938) のものがある。しかし、本種が本州に分布している種かどうか (野村氏は本州に分布と取扱っておられる, 1960, が中根博士は分布を九州とのみされている, 1963) 今の

ところ知らない。いずれにしても兵庫の記録はあるが、原記載によるものでないことをここに訂正しておく。この件に関し大阪の柴田太一氏よりご教示を得たことを記して感謝致したい。

次に筆者未採集で兵庫県産コガネムシに追加すべき種があることを野村全氏よりご教示頂いたのでここに追加種として記録しておきたい。

Diastictus japonicus (Harold)

ヤマトケンマグソコガネ

住吉川の堆積下で3月に採集 (詳しい採集年月日不明)。(11—V—1967)

*兵庫県甲虫相資料, 28.